

ニコルソン在沖米四軍沖繩地域調整官の発言に対する抗議決議

米軍普天間飛行場所属の垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイが12月13日午後9時30分頃、名護市安部の沿岸部、集落の約800mの場所に墜落した。機体は折れ、原形をとどめないほど大破し、事故の規模が重大な「クラスA」に分類・評価されるという激しい事故であり、県民の命までもが奪われかねない墜落事故であった。

報道によると沖縄県の安慶田光男副知事は、14日に在沖米海兵隊のトップであるニコルソン在沖米四軍沖繩地域調整官にオスプレイの飛行停止と配備撤回を求める抗議文を手渡し、抗議したが、その席上でニコルソン在沖米四軍沖繩地域調整官は、腹を立て、テーブルをたたき、「パイロットは住宅、住民に被害を与えなかった。感謝されるべきだ。」と抗議に対して不満を示したとのことである。

一歩間違えば周辺住民を巻き込みかねない大事故を起こしたにもかかわらず、謝罪の言葉はなかった。

本町議会は、今回のニコルソン在沖米四軍沖繩地域調整官の発言は沖縄県民を愚弄し、人命の軽視、植民地意識のあらわれであり、看過することはできない。

よって、ニコルソン在沖米四軍沖繩地域調整官本人、米国大統領、米国防長官及び駐日米国大使に対し沖縄県民への謝罪を求め、ニコルソン在沖米四軍沖繩地域調整官の更迭を強く要求する。

以上、決議する。

平成28年12月19日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

米国大統領 米国国防長官 駐日米国大使 在沖米四軍沖繩地域調整官